

## 県歯科医師連盟評議員 鈴木 龍 口腔内細菌との戦い



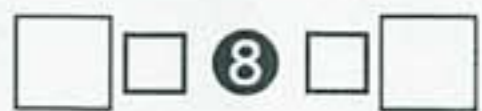
歯周病の主な原因が歯周病菌であることはコマーシャルなどでよく知られている。この歯周病菌を含めた口腔内細菌は新生児にはいない。歯周病は遺伝と勘違いされるが、口腔内細菌は生まれてから感染するものであり、主な経路は母子感染。母親の口腔内が子どもに反映されることが多



い。子どものためにも、母親の歯周病管理と教育は重要である。自分の口でかんだものを子どもに食べさせることは、歯周病だけでなく他の感染症も心配なので絶対にやめてほしい。

口腔内細菌は薬液消毒しても二十〜三十分で元の状態に戻ってしまうと言われている。また口腔

## 高齢者 誤嚥性肺炎の予防を



内細菌には悪玉もいれば善玉もいる。消毒しすぎると細菌叢に変化が起こり、かえってさまざまな細菌に感染しやすくなってしまう可能性もある。歯周病菌は歯牙と歯肉の隙間(歯周ポケット)の、さらにバイオフィルム(菌膜、微生物により形成されるバリアー)の中にいる。バイオフィルムを壊さない限り、薬物の消毒のみでは効果が薄いと思われる。またバイオフィルムを壊すには機械的な処置(歯科医院でのメンテナンスやSPTなど)が必要である。特定の薬液でうがいするだけの歯周病予防法はまだ難しい。

口腔内細菌は若いうちは何でもないが、高齢になると大きな問題となる。肺炎の死亡率は高齢者が94%も占めているという。ほとんどが誤嚥性肺炎であり、口腔内細菌による感染症である。肺炎は発熱や痛みなど苦しみを伴う。普段から歯周病を予防管理し、介護の状態になったら口腔内ケアで管理することが肝要である。ゆりかごから墓場まで、口腔内細菌との戦いは続く。